

第 14 号

発行日 平成26年2月28日
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
 理工学部同樹会(理工学部に
 題字 同樹会長 千葉 信行
 印刷所 株 笹 軽 印 刷

理工学部同樹会報

会員寄稿

我が母校

弘前大学で学ぶ



(平成十四年
 理工学部電子情報システム工学科卒業)

早川 桂

私が弘前大学に入学したのは、今から十四年前二〇〇〇年の四月です。北海道の高専を卒業し、理工学部の三年生に編入しました。総合大学で学ぶとはどんな事を想像しながら弘前へ来たことを今でも覚えています。学部生活、大学院生活(中退)を経て現在は弘前大学生協に勤めています。私自身、弘前に来てここまで居座るつもりもなく、ただただ安直に大学生活を送ってきた結果、今では弘前が第二の故郷となつていきます。そして、卒業後も弘前大学の中に居続けられる幸せを感じています。

今回、この寄稿に当たり様々な事を考えました。諸先輩を前に、一介の生協職員が何を語ろうか。悩みました。結果、後進となる後輩諸君に何かを伝えたい。この一心で今回の寄稿に当たりました。諸先輩からすれば、若輩者の戯言と映るかもしれませんが、若輩者が何卒ご容赦頂ければ幸いです。

前置きが長くなりました。理工学部らしく結論から言います。皆さんに伝えたい事は「大学で学ぼう」です。働くようになり、

大学は様々な想いが集い学ぶ場所だと考えるようになりました。そして、もっとあの場面であろうしていればと思うことがたくさんあります。同期のメンバー・卒業生たちと弘前で触れ合う度に、自分自身の大学生活を振り返りこれから何をしようか考えています。私自身の大学生活は順風満帆ではありませんでした。いろいろ失敗もしましたし、ちよつとした成功もありました。その失敗や成功の中で学んだことが多数あります。仲間の作り方や、調査研究の仕方、先輩・後輩との関わり方、彼女のつくり方等、数え上げるときりがありません。

そして、現在も大学生協に勤め、日々学びと反省を繰り返しています。私たち大学生協職員は、学生のより良い大学生活を支援し、寄り添うことを生業としてしています。因果な商売で、なんでも支援できてしまいません。食事・本・パソコン・アパート・引越し・旅行・各種講座等等、言い変えるなら『大学生活の百貨店』といったところです。学生自身のためになるようにと

いう想いで仕事しているのですが、日々葛藤が生じます。それは、順風満帆な大学生活が本人の学びになるのかという葛藤です。決して順風満帆な大学生活が悪いという訳ではありません。ですが、大学生活は取り返しのつく失敗ができる場所だと思ふのです。後輩には、社会に出る前に成功も失敗も数多く経験し卒業して欲しい。そんな想いを抱きながら、日々仕事をしていきます。「今の話はちゃんと伝わったかな?」「何を想って相談してきたのか?」「この提案は本人のニーズにマッチしているのか?」二十人十色、千差万別。対峙する学生にに応じて、私たちの提案も常に変化します。これが今の私にとつて一番の楽しみであり、苦しみであり、学びです。

私自身の大学生活、そして生協職員として勤めた十年を振り返るとひとつの結論に至ります。弘前大学で学ばせてもらっているという事です。私の場合は、卒業後も含めて学ばせてもらっています。そして、月並みですが人生とは常に学びだと痛感しています。勤めて一時は、ある意味自分の枠を決めようと必死になつていきました。今考えると随分後ろ向きだったなあと反省しています。ですが、自己実現に向けて何かしら行動してないといつまらない。自分自身に対して前向きになれないのです。結果、今はNPO的な取組に参加し、地域活性化の取組に参加するようになりました。そうす

ると、そういった場に出ている学生がいるのです。驚かされた。その学生がどんなモチベーションでその場に参加しているのか、新しい学びがありました。そして、自分自身の大学生活を振り返り、職場で学生組合員に何を伝えられるかを考えました。

大学生活は社会で経験する事の原体験を作る場所だと私は考えています。今の私のスタンスは、学生時代の Yosaku チーム設立準備が原点にあります。残念ながら私が学生時代には設立に至らず、勤めた後に設立されました。ですが、設立に向けて動いた学生時代の経験は今の活動に生きています。過去の自分と今の自分を省みながら学ぶことが、ここ数年非常に多いです。そして、随所に出てくるのが大学生活です。学生時代はもちろん、卒業後も何かにつけて自分の基準になります。学生の皆さん、是非大学生活で様々な事にチャレンジして下さい。卒業した皆さん、大学生活で経験したことを振り返り、今の自分の成長を確かめて下さい。在学中はもちろん、そして卒業後も続いていく、これが私の考える『大学で学ぶ』という事です。是非、多くの皆さんに在学中も卒業後も大学で多くを学んでもらえればと思います。

最後に、弘前大学に関わる全ての皆様のご多幸を祈念して私の寄稿とします。

定年退職教員

平成二十五年度末をもって、地球環境学科 倉又秀一教授、地球環境学科 佐藤魂夫教授、地球環境学科 鶴見 実教授の三名の先生方が、退職されました。ご退職の先生方におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げますとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、各先生方から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。在学時代にお世話になった先生のお顔、お言葉に、当時を懐かしみながらお読み頂ければ幸いです。

退職にあたり

思い出出すこと

理工学研究科
(地球環境学科)
倉 又 秀 一



定年退職にあたり、昔のことを思い出すことも多いのです

が、そのなかで同窓会誌を読まれる方に向けて、決して特別な経験というわけではありませんが、いくつか書かせてください。私の大学学部時代は大学紛争真っ只中で、一学年分ほとんど授業のない時期がありました。それでも四年間で卒業したわけですから、上げ底で卒業したことになります。この授業のない時期のあと、同級生五人で電磁気学の教科書を読み始めました。何も分らない者が集まって、教科書を真ん中に置いて、わいわい議論していくとなんとなくわかってくるという経験が印象的でした。弘前大学に赴任したあと、私たち五人は何も教員に手間をかけなかったの、学生たちに自分たちでゼミを始めるように勧めましたが、ある程度続いたものは皆無とはいえないまでも僅かでした。私のそのかし方がうまくなかったのか、授業を聴いていけばよいという意識が強いのかわかりませんが、私がいなくなっても、自分たちだけでゼミを試みる学生が出てきてくれるといいのですが。

理学部から理工学部の改組は、単純に工系の学科を付け足すだけでなく、学科の組み換えが要求されました。その中で、生物学科が農学部へ移ったり、物理学科の教員が異なる学科に配置されることになりました。外部的な要請という部分もありましたが、他方新たな学科を作ることにも意欲を持ちました。新しい学科を作り上げるにあたり、新たな科目を増やしたり、卒業研究でもこれまでの分野を超えるテーマを考えたりしました。同じ組織にいたよりも、広い範囲の問題にあたることが出来たと思います。それでも、宇宙空間における磁場に関連したものが多く、学部で読んだ電磁気につながるかもしれません。このようにして、定年まで勤めることを許してくださいだった皆様に感謝いたします。

退職にあたって

理工学研究科
(地球環境学科)
佐 藤 魂 夫



退職を間近に控えて、今の心境はひとことで表すと、実感が

わかないということになります。おそらくそれは三年前に発生した東北地方太平洋沖地震が関係していると思います。私は一九七七年に弘前大学理学部教務員に採用され、以来三十七年間、ずっと弘前大学におりますので、今の理工学部の教員の中では誰よりも古株ということになります。当時の旧理学部と現在の理工学部を教員および学生の数で比べると、ほぼ二倍の規模になっています。時折、昔の学生と今の学生は変わったかという質問をされることがあります。変わりましたが、よくわかりません。変わったことは、今でも、年賀状のやりとりをしているのは旧理学部時代の卒業生がほとんどで、理工学部になってからの卒業生は少ないということです。私が若かった時の方が学生との関係が濃密だったという理由からかも知れません。学生と遊んだ講座対抗のソフトボール大会などが記憶に残っています。ソフトボール大会といえば、職員の学科対抗戦もありましたが、今はなくなってしまうました。野球好きの私としては残念でした。

一九八一年に第四次地震予知計画のもとに、地震予知・噴火予知研究および地震学の教育実習の施設として、弘前大学理学部附属地震火山観測所が設置されました。その頃は観測所の助手として、下北半島の泊、日本海沿岸の岩崎、津軽半島の三厩などの地震観測所の建設に忙しい毎日でした。一九八三年に五百〇千年に一度といわれる日本海中部地震(M7.7)が青森県の日本海沖合で発生しました。完成後間もない観測所で貴重なデータが得られ、多くの学生がそのデータを使って卒業研究を行いました。その十年後の一九九三年に奥尻島の近くで北海道南西沖地震(M7.8)が発生しました。さらに翌年の一九九四年には、青森県東方の太平洋沖合で三陸はるか沖地震(M7.6)がたてつづけに発生しました。それらの地震では三厩と泊の観測所に設置されていた広帯域強震計で、当時としては珍しい広帯域強震動記録が得られました。それまで見ていた短周期地震計の記録と波形が大きく違うことに驚きました。私に付き合っ、その広帯域強震計の保守・点検に出かけた卒業生も多くあります。観測点まで往復四時間の車の中では、学問以外の話もいろいろしました。懐かしい思い出です。その後、あつという間に時間が過ぎ、退職も間近になった頃、これも五百〇千年に一度の頻度で発生するとされる東北地方太平洋沖地震(M9.0)に襲われました。想定外の四十mを超える断層の大きなすべりが発生し、巨大地震に対する見方が変わりました。与えられたこの機会に巨

大地震の発生メカニズムの解明に少しでも貢献したいと思いがら研究を続ける中での退職、実感がわかないというのはそういう事情によります。

大学に進学する際、近所の方から短冊型の板に書かれた書を頂きました。いわく、「少年老い易く学成り難し」。以来、横目で眺めていましたが、退職が近づき、その意味を実感するようになりまし。しかし、「六十の手習い」という言葉もあります。まだまだ向上することは可能と思ひ、残りの人生を過ごしたいと思ひます。最後に、今までご支援、ご協力して下さった皆様に心から感謝申し上げますとともに、弘前大学の今後の益々の発展をお祈りします。ありがとうございました。

弘前大学を退職するにあたって

理工学研究科
(地球環境学科)
鶴見 実



ジョンレノンの奥さんの ONO YUKO は世界のどこに住みたいかと聞かれて、「空気

と水のおいしいところ」と答えたそう。私も空気と水は美味いほうがいいと思つて環境化学を始めたのである。弘前大学に着任したのは一九九三年五月末、それ以来二十二年間お世話になった。研究を始めた一九七七年には大気汚染や水質汚染など公害問題はあつたが、環境化学という分野はなく、新しい分野と言われた時代であつた。地球化学の手法を環境汚染の分野で応用し解析を進める形で始まつた。「自然界に元素や化学成分はどこにどれだけ含まれるのか」で始まつた地球化学は元素の存在度や分布を調べて平均値を知り、異常値を見出す。それは資源探査や資源開発に深くかわつていた。そのため分析化学が発達したが、地球化学は異常値をもたらすメカニズムの解明のために地球科学の広い分野の知識と結びついた解析を必要とした。メカニズムを知り元素はどこから由来し、どこを通り、どこに濃縮するのかを知ることは、地球化学の最後を知るべき元素の循環の解明である。それが知れば予測や予知ができることになる。どこに「金」があるのかわかるのである。天気予報や地震予知、火山噴火予知も最後の目的となる。その手法を環境分野に当てはめれば、どこに汚染が起こるのか、どうすれば防げるのか、どう対策すべきかが解ることにな

る。理屈はそうであつても環境問題は多種多様であつて、化学に限定しても水質問題や大気汚染、土壌汚染、植物の枯死などの生物汚染まで幅の広いものである。八甲田山で発生した二度の死亡事故は二酸化炭素による窒息と硫化水素による中毒によるものであつた。最近起こつた飲み水の異臭味は、津軽のような寒冷な地でも起こるのかと関係者を驚かせた。PM2.5と呼ばれてマスコミに取り上げられるようになった大気汚染は、二十年以上前から山小屋の管理人が山の雪の汚れの変化で気付いていた。山の手入れがなくなり、大きな環境変化としての温暖化も加わり、松枯れが青森県にも入るうとしてい。あづましく「過ぎたたくてもそうさせてもらえない「なにか」の原因は、複雑ということになつてい。松枯れと同じように、気づいた時には今まであつたものが無くなつていたということがありうるのだ。ゴミの十二分別のように、市民は理解すれば協力を惜しまない。運用の仕方を工夫するのは、その専門家がまた必要だ。北の地に何とか環境のモデル地域ができるといいなと思ひ続けてきた。

そんななかで知りたいこと、やりたいことをやり続けさせてもらった。多くの学生に恵まれて一緒に研究を遂行できたことがうれしかった。日本で、まさかの原発が壊れて放射性物質による環境汚染が広まつた。事故以前からセシウム137が表土に濃縮するのは植生が関係していると解明してきたのだが、いままた新たな汚染が広まつた。植生がある限りセシウムが残り続けるのは厄介なことだ。すでにタイムリミットであるが、どうすればいいかはこれから続く方々にゆだねていかなければならない。



平成二十四―二十五年度
理工学部就職対策委員会委員長
深瀬 政秋

定年二年前の筆者は、年齢歳の今日この頃です。この原稿依頼をいただいてまず考えたことは、ついこの間提出したばかりなので何を書こうか、ということ。一年前に書いたのは理工学部の就職状況に関する詳細で、それらは現時点でも大体当てはまりますので、同じような書き方では芸がありません。そこで今回は、データに拘らず自分の記憶を頼りとした偶感を述べることを思ひ立ちました。とは云うものの、全くデータを示さないのでは独りよがりの誹りを受け兼ねないので、話の糸口として表1をお示しします。これは就職担当の事務方が作成したマスターファイルに手を加え、各学科の就職率、進学率などを多角的に読みとることが出来るようにしたものです。筆者は二年前、進路状況は各学科それぞれだと述べたことがありますが、それは学部の理念にそぐわない発言だと大分非難されましたが、今更ながら、表1を見てどの学科も同様だと感じる人が居るかどうか、尋ねてみたい気がします。

進路状況が学科毎に違つたと云つても、差別化をしたり長短を述べようとしたのはありません。複雑な世情を反映して入試倍率も就職戦線も毎年変動はするものの、表1と入試倍率を並べて統計的な見方をすれば、理系は入口で人気があり、工系は出口が広いと云えます。理工融合の理念があるなら、その演繹で個々の事象の説明が出来て、対応が出来なければならぬはず。そういうことの積み重ねが、少子化対策にも学部の活性化にも有効と思ひます。しかし、積み重ねるには当然長いスパンが必要で、現状の組織とはかみあわない議論の域にはいつてしまひそうです。

表1はそれなりに工夫したのですが、当該学生には何の役にも立ちません。そこで、ダイ

表1 平24年度(25年3月)理工卒業生の進路集計

| | 数理科 科学科 | 物理科 科学科 | 物質創 成化学科 | 地球環 境学科 | 電子情 報工学科 | 知能機 械工学科 | 知能機 械工学科 | |
|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|------|
| 卒業 | 35 | 38 | 42 | 55 | 63 | 51 | 1 | 285 |
| 進学 | 10 | 15 | 19 | 16 | 16 | 30 | | 106 |
| 希望者数 | 19 | 19 | 21 | 35 | 40 | 18 | 1 | |
| 採用 職種 | 製造業 | | 2 | 4 | 1 | 4 | 11 | 22 |
| | 情報通信業 | 1 | | 1 | 7 | 19 | | 28 |
| | 卸・小売業 | 2 | 2 | 10 | 2 | | | 18 |
| | 建設業 | | | 2 | 4 | 1 | | 6 |
| | 電気ガス熱水道 | | | | 2 | | 2 | 4 |
| | 運輸業・郵便業 | | | | 1 | 1 | 3 | 4 |
| | 金融・保険業 | 2 | 1 | | 2 | | | 4 |
| | 医療・福祉 | | | | 2 | 1 | | 3 |
| | 不動産業 | | | | 1 | | | 1 |
| | 飲食店・宿泊業 | | 1 | 1 | | 1 | | 3 |
| | その他の産業 | | 2 | 5 | 7 | 7 | | 21 |
| | 公務員 | 3 | 4 | 3 | 6 | 3 | 1 | 22 |
| | 教員・教育事務 | 8 | 3 | | 1 | 1 | | 13 |
| 小計 | 16 | 15 | 21 | 35 | 38 | 17 | | 142 |
| 未就職 | 3 | 4 | | | 2 | 1 | 1 | 11 |
| 就職率 | 84.2 | 78.9 | 100 | 100 | 95 | 94.4 | 0 | 92.8 |
| その他 | 6 | 4 | 2 | 4 | 7 | 3 | | 26 |

ナミツクな進路動向を的確に把握すべく、求人数、内定者数、進学志望者数などを学科毎に毎月(平成二十四年度前半)集計したところ、一般企業からの求人数は工系の学科とコース(大学院博士前期課程)が多く、理系では最初から公務員や教員を志望する学生が少なからぬ割合を占めるのが明らかです。公務員志望の学生は、生協や予備校のセミナーを実質的な拠り所としています。そのため、それなりの、学費相当分の経費がかかります。公務員受験は保護者

の関心も高いので、往々にしてコストパフォーマンスを問われることがあります。教員採用案内は工系の学科にも届きますが、興味を示す学生は殆んどおりません。これは、該当する学科が提供する教員資格が情報や工業担当であることが主因です。教育機関としてそのような資格取得のためのカリキュラムを用意するのは正論ですが、高校側の実態を学生も良く知っています。普通高校に情報枠はあるものの、教員免許更新新制度のもとで他科目の代役が

当てられることが多いようで、そのため情報プロパーの新規採用は極めて少ないのです。一方、工業科目に関しては枠が少ないので志望も少ないことになりま。いずれにしても、実は、教員志望の学生に対する就職担当教員の出番は殆んどなく、実体は学務主任の守備範囲です。このあたりは学生の進路に関する縦割りの弊害が出ているところで、教員志望の動向が一段落する五月頃にならないと年度毎の進路状況や就職率などの最終集計が決まりません。似たようなことはインターンシップ制度にも当てはまります。就活を学業に絡めたインターンシップの窓口は就職担当で、ガイダンスなども主催するのですが、それから先は学務に担当が移ります。教職科目の教職入門も実際の高校を舞台にしたインターンシップのようなものですが、こちらは全てが学務担当です。筆者は、ダイナミックな進路動向の把握は、大学にとって一番大事な学生に対する効果的な「進路」指導に不可欠と考えております。しかし残念ながら調査に限界があるため、平成二十五年度は実施しておりません。進学の動向が、必ずしも実態を反映していないためです。これは就職担当と学務に次ぐ第三の縦割り現象です。就職と進学を合わせた進路支援体制というも

のがあって然るべきです。さて、就活状況に関しては、苦戦する学生のことかどうかという点も気がかりです。驚くことに、エントリーシートや性格テストのようなもので不合格になる学生が少なからずいます。勿論、エントリーシート対策も自己分析テストガイダンスも二重三重に開催しているのです。要するに、水場につれて行っても飲む気がなかった、ということ。この遠因は、レポート提出をネット検索で対応して筆力鍛錬を自ら放棄したり、本音と建前の意識がなかったりすることにあり、折角面接までいったのに武運拙くという結果に相成るのは、プレゼンやコミュニケーションが付け焼刃であることを見透されるケースが多いようです。しかし、そればかりではありません。求人側、人事担当も様々で、面接学生の立ち居振る舞いのみならず、癖まで採否のフアクターとなることもあるということがあります。ただ、こういう微妙なレベルを学生にフィードバックするのは、昨今の世情動向に鑑みると難しいところ。求人側の色々に関連してもう少し付け加えれば、採否の結果を丁寧に連絡してくださるところもあれば、傍若無人に学生に課題を与え続けたり、卒業時期に拘束したりするところもあり

ます。弘前大学理工学部にもかなりの割合の企業経験者はいま。すので、あまり大学教育を軽んじることなく、少し大きな観点で処してほしいと思います。それから、リクルーティングに際しては、いささか強引に学生の注目を引きながら、無情に不採用ということがあって、なかなか油断がなりません。就活後倒しについては既に大きな話題ですが、これはこれからのことなので本稿では割愛します。最後に、読者のOB・OGの皆様との接点について述べますが、リクルーティングで来学されるOB・OGの方も多いのですが、彼らの話はどうしてもその会社に特化したものになりません。教育組織としては、もう少し高い立場からの後輩に向けてのメッセージや、功なり名を遂げた方の珠玉の講話をいただきたいと考え、毎年実施しているところ。このような取り組みに賛同されるOB・OGの方は是非お声掛けをと思います。今後ともよろしくお願いしま



紙上職場訪問 (6)

食品総合

研究所の紹介

(地独)青森県産業技術センター
食品総合研究所企画経営監

奈良 賢 静

(昭和五十七年理学部生物学科卒業)

紙上職場訪問ということで、今回、地方独立行政法人青森県産業技術センター食品総合研究所(以下「食総研」という。)を取り上げていただき、千葉同樹会長を始めとする関係者の皆様に感謝申し上げます。次第です。なお、青森県産業技術センターの試験研究の様子は、<http://www.youtube.com/user/aitofficial>をご覧ください。

さて、食総研の歴史は古く、明治三十四年(一九〇〇年)に設立した県の試験研究機関である青森県水産試験場製造部に端を発し、昭和三十三年に青森県水産物加工研究所として八戸市に整備され、平成二十一年に行われた県試験研究機関の地方独立行政法人化を経て、名称を変え現在に至っています。また、



県の組織改編により、六戸町にある農産物加工に関する研究を行う農産物加工研究所とむつ市にある下北地域の農林水産物加工に関する研究を行う下北ブランド研究所が、食総研の下部機関として統合されました。

紙面の都合もあり、ここでは、下部機関を除いた私の所属する食総研について、ご紹介させていただきます。

食総研は、全国有数の水揚げを誇る八戸港のすぐ近くにあります。三年前の東日本大震災により、津波で一階がほぼ冠水し、試験・研究機器類が全損するなど甚大な被害を受けましたが、お蔭を持ちまして、現在は完全復旧し、被災前に負けない地域の創造的復興のため、職員が一

体となって業務に励んでいるところ です。

組織としては、総務調整室、水産食品開発部、水産食品化学部の一室二部から成り、正職員として、研究職が所長以下十名、総務関係が二名、また、試験・研究等を支えるスタッフとして臨時職員等が六名います。なお、正職員のうち九名が県からの派遣職員、三名が地方独立行政法人のプロパー職員(研究職)となっています。

次に、業務内容についてです。本県は、ヒラメやクロマグロ、サクラマス、ウスマバル、キアソコウ、ホタテガイ、ヤリイカ、シジミ、シラウオなど生産量全国一、二位を誇る良質な魚介類に恵まれています。水産食品開発部では、これら水産物を原材料として、企業や消費者のニーズに応じた新しい水産加工品や加工技術を開発しているほか、食品加工業の方々への商品開発に伴う技術指導などを行っており、深浦町の「つるつるワカメ」や青森県漁連の「ホタテマヨネーズ缶詰」などは食総研が開発した代表的な例です。また、水産食品化学部では、水産物の特性を物理化学的手法で解析し、水産物の高度利用や鮮度保持、冷凍保存などに関する技術開発



のほか、食品加工会社からの依頼分析、異物検査などを行っており、具体的には、高価な化粧品原料として期待される水産物由来のセラミド抽出技術やサバ粗脂肪簡易測定機器の開発などを行ってきています。

下部機関を含めた食総研全体における弘前大学出身の研究者は、現在十名います。

私自身は、在学中、手代木先生や石田先生のご指導を受け、プラナリア新生細胞(ネオプラスト)の組織培養に関する研究を行っていたのですが、北大水産学部の知人の影響もあり、青森県職員採用試験(水産研究職)を受け、水産試験場、水産業改良普及員、本庁水産行政を経て、現在に至っています。なお、公務員試験の勉強は、三年生の四

月から始めました。ちなみに、弘前大学理学部生物学科から県の水産研究職に採用されたのは私が最初で、その後、同じ学科の後輩が本県のほか宮城県や茨城県の水産研究職で採用となっており、現在、研究機関等で活躍されています。

振り返ってみると、私はある意味で弘前大学にとつて、この分野の就職の道を切り開いたパイオニアとして重要な役割を果たしてきたのかなと思っ

ています。閑話休題。昨年六月に閣議決定した「日本再興戦略」において我が国は、農業・食料関連産業の国内生産額を現状の一〇〇兆円から平成三十二年には一二〇兆円を目指すこととしており、食総研の果たす役割は今後ますます重要になってくるものと考えています。

優秀な弘前大学卒業生が食総研にたくさん入ってくることを期待している次第です。

末筆ながら、同樹会のみまますのご発展と会員の皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。



平成二十四年度 理工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会

平成二十五年三月二十二日、大学会館三階大広間にて、平成二十四年度理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催いたしました。卒業、修了生からのスピーチや、弘前大学津軽三味線サークルのみなさんの演奏、またご退職の先生方をはじめ、学部長や各学科長などの先生方のお話を頂戴し、楽しく和やかな会となりました。ご参加の皆様が改めまして感謝申し上げます。しかし残念なことに、参加者数は、数年来の下降傾向にあり、このままこの傾向が続きますと、場合によっては、祝賀会の開催意義が問われるかも知れません。祝賀会は、同窓の繋がりの大切さを確認する場でもあります。卒業、修了生の皆様の意識の中に、在学期間よりも遥かに長く続く、同窓の繋がりの大切さが根付くことを期待して止みません。

最後になりましたが、祝賀会準備及び開催にご協力頂いた理工学部教職員関係各位に感謝申し上げる次第です。



物理科学科



数理科学科



地球環境学科



物質創成化学科



知能機械工学科



電子情報工学科

学生表彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです(平成二十五年三月以降)。今後とも学生の活躍にご期待ください。

- 理工学研究科博士前期課程 (物質創成化学コース) 二年の丹野寿則さんが、平成二十四年度弘前大学学生表彰を受けました。
- 理工学研究科博士前期課程 (知能機械工学コース) 二年の石田卓也さんが、日本伝熱学会東北支部学生発表会 優秀プレゼンテーション賞を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (物質創成化学コース) 一年の及川祐梨さんが、八戸工業高等専門学校・岩手大学工学部・一関工業高等専門学校・弘前大学大学院理工学研究科の四校学術交流会 最優秀発表賞を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (知能機械工学コース) 一年の上野功樹さんが、八戸工業高等専門学校・岩手大学工学部・一関工業高等専門学校・弘前大学大学院理工学研究科の四校学術交流会 優秀発表賞を受賞。

- 賞を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (知能機械工学コース) 二年の山口慶太さんが、計測自動制御学会東北支部 優秀発表奨励賞を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (知能機械工学コース) 二年の石田卓也さんが、The 10th Asian Thermophysical Properties Conference, Best Student Paper Awards を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (知能機械工学コース) 一年の後藤麻友さんが、消防庁長官優秀賞を受賞。
- 理工学研究科博士後期課程三年の郭素娟さんが、International Union of Pure and Applied Chemistry : 9th International Conference on Novel Materials and their Synthesis (NMS), IUPAC Poster Prize を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (物質創成化学コース) 一年の嶋村拓人さんが、色材協会創立八十五周年記念会議 ポスター賞を受賞。
- 理工学研究科博士前期課程 (物質創成化学コース) 二年の續石大気さんが、International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan 優秀ポスター賞を受賞。

弘化会総会・内田健吾先生叙勲を祝う会

昨年十一月二日(土)、ホテルニューキャッスルに於いて弘化会総会、春の叙勲で瑞宝中綬章の内田名誉教授を祝う会が開かれた。理工学研究科長吉澤篤先生ほか特別会員五名と会員計七十名ほどの参加を得て、文理学部理学科化学専攻の先生と同期の五回生である天内みどり氏をはじめとし、五十年振りに会った同期生、遠くからは大阪からの教え子等、先生夫妻を囲んで盛大に行われた。内田先生には、本会発足以来、顧問として御尽力いただいたのでお祝いとして花束を贈呈した。



平成24年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

平成25年3月31日

◎収入の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘要 |
|-----------------|------------|-----------|------------|---|
| 繰越金 | 8,146,001 | 8,146,001 | 0 | 平成23年度より |
| 会費 | 3,480,000 | 1,250,000 | △2,230,000 | 正会員 125人 学部 1年 (25年度入学) 56人 560,000円 " 1年 (24年度入学) 32人 320,000円 " 2年 1人 10,000円 " 3年 1人 10,000円 " 4年 (祝賀会時納入3人分含) 34人 340,000円 院生 1年 1人 10,000円 " 2年 0人 0円 " 後期課程 0人 0円 |
| 卒業・修了祝賀会当日会費納入分 | 0 | 97,500 | 97,500 | 学生 17人 42,500円 教員等 22人 55,000円 |
| 雑収入 | 200 | 50 | △150 | 預金利息 |
| 計 | 11,626,201 | 9,493,551 | △2,132,650 | |

◎支出の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘要 |
|-----------|------------|-----------|------------|---|
| 弘前大学同窓会費 | 240,000 | 240,000 | 0 | 平成24年度負担金 |
| 印刷費 | 320,000 | 429,450 | 109,450 | 会報第13号 2,000部 (420,000円)、会費払込取扱票印刷 1,000枚 (9,450円) |
| 卒業・修了祝賀会費 | 300,000 | 370,630 | 70,630 | 卒業・修了祝賀会経費 (273,130円)、卒業・修了祝賀会当日会費 (97,500円) |
| 写真代 | 63,000 | 50,400 | △12,600 | 卒業・修了祝賀会記念写真代 |
| 通信・運搬費 | 50,000 | 43,670 | △6,330 | 加入案内送料 (研究科新入生) (3,780円) 未加入者へ加入案内送料 (学部4年) (36,820円)、会報送料他 (3,070円) |
| 会議費 | 10,000 | 0 | △10,000 | |
| 事務費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金 |
| 消耗品費 | 20,000 | 22,926 | 2,926 | プリンターラベル、封筒代他 |
| 郵便振替払込料 | 18,000 | 13,400 | △4,600 | 会費払込手数料 (122人) |
| 予備費 | 10,485,201 | 8,203,075 | △2,282,126 | 次年度以降経費引当金を含む |
| 計 | 11,626,201 | 9,493,551 | △2,132,650 | |

平成25年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

平成25年4月1日

◎収入の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|-----|------------|------------|--------|--|
| 繰越金 | 8,203,075 | 8,146,001 | 57,074 | 平成24年度より |
| 会費 | 3,520,000 | 3,480,000 | 40,000 | 正会員 352人×@10,000円 学部 1年 307人 " 2年 5人 " 3年 5人 " 4年 30人 院生 5人 |
| 雑収入 | 200 | 200 | 0 | 預金利息 |
| 計 | 11,723,275 | 11,626,201 | 97,074 | |

◎支出の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|-----------|------------|------------|---------|---|
| 弘前大学同窓会費 | 240,000 | 240,000 | 0 | 平成25年度負担金 |
| 印刷費 | 420,000 | 320,000 | 100,000 | 会報14号 2,000部×@210円 |
| 卒業・修了祝賀会費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 120人×@2,500円 |
| 写真代 | 63,000 | 63,000 | 0 | 卒業・修了祝賀会記念写真代 120人×@525円 |
| 通信・運搬費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 加入案内送料 (研究科新入生) 90人×@90円 加入案内送料 (学部学生4年) 250人×@120円 会報送料他 (11,900円) |
| 会議費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 事務費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金 |
| 消耗品費 | 20,000 | 20,000 | 0 | プリンターラベル、ドッチファイル他 |
| 郵便振替払込料 | 18,000 | 18,000 | 0 | 会費払込手数料 150人×@120円 |
| 予備費 | 10,482,275 | 10,485,201 | △2,926 | 次年度以降経費引当金を含む |
| 計 | 11,723,275 | 11,626,201 | 97,074 | |

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司

住所: 〒036-8561

弘前市文京町三

電話: 0172-39-3660

E-mail: ken@eit.hirosaki-u.ac.jp

URL: http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/

(平成25年4月1日現在)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

役員一覧

幹 副 会 長

事 長 長

松 三 千

野 浦 葉

徹 賢 信

一 條 健 司

(理工学研究科研究部助教)

中 澤 侃 志

(弘前市健康福祉部子育て支援課)

監 査 荒 木 宏 孝

(理工学研究科教育研究支援室)

須 藤 勝 弘

(学術情報部情報基盤課技術専門職員)

名 譽 会 長 宮 永 崇 史

(理工学研究科長)

顧 問 吉 澤 篤

(前理工学研究科長、企画担当・副学長)

南 條 宏 肇

(元理工学研究科長)

稲 村 隆 夫

(元理工学研究科長)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)

大 本 南 稲 吉 宮 須 中 一 條 健 司

(弘前大学名誉教授)